

陳情一部取下げと再陳情について（説明）

11月24日区議会文教委員会は、私たちの陳情「練馬区立図書館の委託化に反対し図書館の充実と発展を求める」について、最終審査を行い、陳情要旨1「図書館のカウンター業務をはじめとする業務の委託化はやめてください。」を多数決で、不採択としました。

陳情要旨2～5については、継続審議となりました。（詳細は、別掲の「傍聴メモ」をご覧ください）

私たちは、11月30日寄合を開き、陳情要旨2～5を取下げ、新しく出し直すことといたしました。

判断は、次のようなことを基に行われました。

- ① このままにしておく、一括不採択になるか、継続審査として放置されるか、のいずれかになる。
- ② 折角、文教委員会が、審議をしようとしているこの時を、逃すべきではない。
- ③ 再提出する陳情は、いわば、委託反対に次ぐ「第2ステージ」の活動である。

- ・ 10,659筆の署名の重みを引継ぐために、陳情書に、その旨を明記する。
- ・ 起草のための集まりを持ち、みんなで力を出し合ってつくりあげる。（12/6（火）18:30 光が丘図書館）
- ・ 採択の可能性を高めるため、主体性は維持しながら、関係者へ相談をかける。
- ・ 提出期限は、12/14（水）午前中（区議会陳情受理期限）

※ 陳情要旨2～5は次の通りです。（12/2陳情一部取り下げ願いを提出しました。）

2. 資料費を増額し、利用者の期待に応えられるよう資料を充実してください
3. 全館に知識と経験豊かな職員を配置してください。
4. 図書館法に基づいて図書館協議会を早急に設置し、練馬区の図書館のあり方を協議してください。
5. 利用者懇談会を開いて、利用者の声を運営に活かしてください。

ふりかえって考えたこと ～ 陳情一部取下げ、再陳情にあたって～

11月30日の寄合で、陳情再提出への活動、さらによりよい練馬区の図書館をめざす道のりは、委託反対に次ぐ「第二ステージ」だ・・・!!という表現がうまれました。

きっと、道程の中で、第三、第四のステージがあることでしょう。

私は、昨年のよりよい練馬区の図書館をつくる会準備会、さらに遡ると、03年11月の練馬区の図書館の未来を考える会の頃までを振りかえってみました。

東京23区で窓口業務の委託がはじまったのが2001年台東区、02年江東区と広がっていくなかで、江東区の東陽図書館で委託先のTRCのアルバイトスタッフによる個人情報悪用が発覚したのは、02年の11月のことです。

練馬に図書館をつくるための連絡会で、江東区の東陽図書館・古石場図書館を見学したのは、「未来の図書館を考える会」のあとでした。私たちは、委託先の会社のエプロンをつけた窓口に座っているアルバイトの女性社員の姿と緊張した表情のチーフさん、そして利用者のまばらなフロア、がらんとした事務室などに、練馬区の図書館との温度差を感じました。

さて、04年7月、区立施設委託化民営化実施計画案が発表され、区職員労働組合図書館分会・図書館協力員労働組合の委託問題対策委員会による対案、「練馬区の図書館をより充実させるために素案」が出来ました。

「明日の図書館を考える集い」につづき、よりよい練馬区の図書館をつくる会準備会の話し合いがあり、ともかくにも、委託反対の陳情書の作成と署名活動の用意にエンジンがかかりました。

ここで、第一ステージの幕があがったわけです。陳情書の表題は「練馬区立図書館の委託化に反対し、図書館の充実と発展を求める陳情書」となりました。

陳情書の文面を皆さんと共に検討している時、私の脳裏には、見学した江東区や板橋区の図書館のフロアの情景が浮かんだものです。

まず、委託はふせがねばという思いが先行しました。

図書館分会・協力員労組の対案の優越性に依拠する思いが強くあったのです。

「署名への協力をお願い」のチラシ文案をつくるときも、そういう傾向があったように思います。

チラシに、よりよい練馬区の図書館をつくる会は、どういう会なのかをのせたほうがよいという指摘が会の中からあった時、ハッとしました。

そもそも会は、区民・利用者のみなさんに、自分の姿・中身をきちんと伝えねばならないのに……。

会則案が出来あがり、会則がきまった時、私はつくづく思いました。会はこのようにして、活動するなかで、関わっている人たちの力で育つものなのだ。

第一ステージは、「私たちはこういう図書館を望む」を作りあげました。

8月18日に、区議会文教委員の皆様へとして、「当会の成立から現在までの経緯と十分な審議のお願い」を出しました。

この文書で、会が生まれた契機を説明し、会の目的は、「練馬区の図書館の充実と発展です。今回お渡しする『私たちはこういう図書館を望む』に具体的に考えをまとめました。行政・図書館職員と区民・利用者・ボランティアが相たずさえ、全ての先入観を廃して『健康と活力あふれる文化のまちふるさとねりま』にふさわしい、よりよい図書館を地道につくり続けようとしています。」と自らを伝えました。

陳情の第一項目は不採択になりましたが、文教委員会での三回の審議は、内容のあるものでした。これからも、委員の皆さんと良い関係を深めながら、練馬区の図書館の充実と発展という共通の合意をよりたしかなものにして行くことも、第二ステージの仕事です。

陳情書再提出にあたって、第二ステージの最大の課題は、会が、練馬区の公共図書館の政策を研究し学習して、あみだすことではないでしょうか。

旧陳情の要旨2,3の項目は、それなしには、主張出来ないのではありませんか。

6日の起草の集まりに期待します。

2005年12月4日

よりよい練馬区の図書館をつくる会
事務局長 関 日奈子